

# 第3部 基本計画



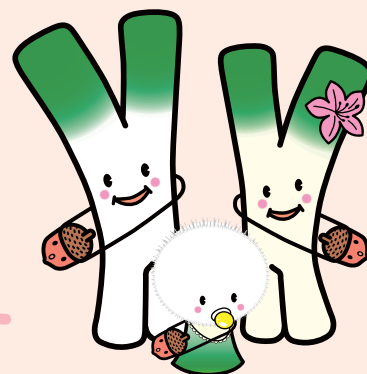
米子市のイメージキャラクター  
**ネギポ**

平成23(2011)年3月31日、  
米子市の弓ヶ浜地区生まれ。  
ネギ太とネギ子の子ども。  
いつもお父さんやお母さんと  
一緒。

# ①『あした』がいきいき

あした  
〈未来の活力とにぎわいを生み出す、魅力あふれるまちづくり〉

- ① 活力を生み出す商工業の振興
- ② 圏域観光の宿泊拠点としての魅力の向上
- ③ 地域を支える農業・漁業の振興
- ④ 中心市街地の活性化
- ⑤ 時代をひらく新たな産業の育成
- ⑥ 企業立地の促進
- ⑦ 雇用環境の整備
- ⑧ 新たなにぎわいの創出と地域情報の発信
- ⑨ 国際交流の推進



# ① 『あした』がいきいき

あした  
未来の活力とにぎわいを生み出す、  
魅力あふれるまちづくり

まちづくりの基本方向

## 1 活力を生み出す商工業の振興

### 基本計画 ① 中小企業対策の推進

#### 現況と課題

地域経済を支えている本市民間事業所数（平成24年経済センサス活動調査）は6,958事業所で、従業者数は66,922人ですが、そのうちの98.7%にあたる6,872事業所は、従業者数99人以下の事業所です。

中小企業は経営基盤が脆弱であることから、安定的な経営を維持し、業務の効率化の促進や事業の拡大を図るためには、開業資金、運転資金、設備資金などにむけた融資に対する支援が求められています。

このため、市としては、鳥取県、経済団体、金融機関との連携を密にし、中小企業が必要とする融資の円滑化を図るとともに、経営相談・指導の充実や人材の育成、販路の拡大を支援し、中小企業の経営基盤の強化を図るとともに、事業承継を支援していく必要があります。

#### 計画目標

- 1 中小企業の安定的な経営と円滑な事業活動に必要な融資を支援します。
- 2 中小企業の経営基盤の強化を図るとともに、事業承継を支援します。

#### 主な施策

- 1 中小企業への制度融資による支援
  - 中小企業の振興に資する制度融資の実施
  - 小規模事業者向け融資の円滑化
- 2 中小企業の経営基盤の強化および事業承継の支援
  - インターネットによる中小企業情報の発信
  - 商工団体事業活動への支援
  - 中小企業の販路開拓への支援
  - 地元事業者の事業承継への支援



制度融資などの相談窓口

## 数値目標

指標名	小規模事業者経営改善資金等利子補給補助金利用者数 <年間>				
対応する計画目標	指標の説明				
【計画目標1】 中小企業の安定的な経営と円滑な事業活動に必要な融資を支援します。	小規模事業者や理美容業などの生活衛生関係業者の資金繰りを支援する経営改善資金の利用者に対して利子の一部を補助することにより制度の利用を促進し、中小企業者の経営の安定を図ります。制度の新規利用者数を毎年2件ずつ増やし、28件にすることを目標とします。				
参考値				現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H26	H32
—	—	—	18件	18件	28件

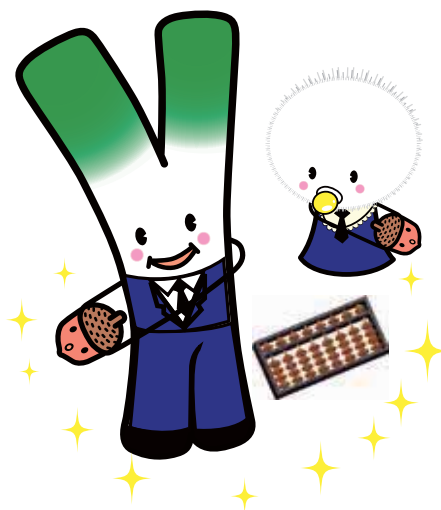
## 参考資料

## 米子市制度融資実績

(単位：千円)

区分	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
新規分	1,708,558	1,448,107	1,147,985	1,055,975	1,984,395
継続分	2,242,061	3,042,495	3,484,524	3,546,596	3,470,290
計	3,950,619	4,490,602	4,632,509	4,602,571	5,454,585

&lt;資料：商工課&gt;





# ① 『あした』がいきいき

あした  
未来の活力とにぎわいを生み出す、  
魅力あふれるまちづくり

まちづくりの基本方向

## 1 活力を生み出す商工業の振興

### 基本計画 ② 商業の活性化

#### 現況と課題

本市は、昭和30～40年代に、山陰では例のない800mに及ぶアーケード街の完成や、百貨店などの大型店の相次ぐ進出・開店などにより、山陰の大阪、商都米子と称され、商業のまちとして発展してきました。

また、昭和40～50年代には2つの卸売団地が完成し、卸売業の集積が進むとともに、平成13（2001）年の米子流通業務団地の整備により、流通機能の向上が図られました。

しかしながら、近年の商業をめぐる地域環境は、消費者ニーズの多様化や市外への大型商業施設の進出、インターネットショッピングの増加などにより大きく変化し、本市の年間商品販売額（平成24年経済センサス）は、県内1位（376,877百万円）にあるものの平成16（2004）年以降、減少傾向が続いています。

そのようななか、複数の商店街のアーケード撤去を含む環境整備や複合商業施設の整備などを支援し活性化を図ってきましたが、依然として厳しい状況にあることから、引き続き、商店街などのにぎわいの創出や魅力度の向上、商業集積に資する施策、本市商業の核となる大型商業施設に対する支援などを継続していく必要があります。

また、近年、本市における店舗などの廃業率が開業率を上回っていることから、地域の開業率を引き上げるため、平成26（2014）年に鳥取県西部9市町村で策定した創業支援事業計画に基づき商工団体などと連携して創業を支援し、新規商業参入者や中小事業者への支援など、商業の活性化を推進していく必要があります。

#### 計画目標

- 1 商店街などのにぎわいを創出する活動を推進します。
- 2 市内商業の核となる大型商業施設の存続を支援します。
- 3 中心市街地商店街の新規出店などや魅力度を高める環境整備への取組を支援します。
- 4 創業支援事業計画による創業を支援します。

## 主な施策

### 1 商店街などのにぎわい創出に資する活動の推進

- 商店街イベントへの支援
- 商店街駐車場確保への支援
- ローズセントラルビル（四日市町立体駐車場）の管理
- 元町パティオの管理運営
- 商店街連合会事業活動への支援
- 鳥取県中小企業団体中央会事業活動への支援
- 米子日吉津商工会事業活動への支援

### 2 市内商業の核となる大型商業施設への存続支援

- 大型商業施設に対する支援

### 3 中心市街地商店街の新規出店などや魅力度を高める取組の促進

- チャレンジショップ事業の実施および参加者への経営指導
- 商店街の新規出店に対する支援
- 商店街の環境整備事業への支援
- まちなか振興ビジネス支援事業による支援
- 商店街の空き店舗調査の実施および情報の公開

### 4 創業支援事業計画による創業の支援

- 創業支援事業計画の創業支援事業修了者に対する創業支援
- 創業支援資金による制度融資の円滑化

## 数値目標

指標名		中心市街地商店街空き店舗への出店数 ＜平成14年度からの累計＞			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標3】 中心市街地商店街の新規出店などや魅力度を高める環境整備への取組を支援します。		本市が取組をはじめた平成14年度以降の出店数の総数です。空き店舗に出店する商業者などへの支援、新規商業者参入者の支援を行うことにより、毎年7店舗ずつ増やし、113店舗にすることを目標とします。 ※ 現状値は、平成14年度～平成26年度の累計値			
		参考値		現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H26	H32
59店舗	69店舗	74店舗	78店舗	78店舗	113店舗



笑い通り商店街で実施した環境整備事業

## 基本計画 ② 商業の活性化

## 数値目標

指標名		商店街振興組合などが環境整備を行った件数 <平成21年度からの累計>			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標3】 中心市街地商店街の新規出店などや魅力度を高める環境整備への取組を支援します。		本市が取組をはじめた平成21年度以降に商店街振興組合などが環境整備を行った総数です。 既存の商店街をブラッシュアップし、魅力を高める環境整備の取組を実施する商店街振興組合を支援することにより、5年間で新たに7件の環境整備を図り、13件にすることを目標とします。 ※ 現状値は、平成21年度～平成26年度の累計値			
参考値				現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H27	H32
3件	4件	5件	6件	6件	13件

指標名		米子市内での新規創業件数 <年間>			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標4】 創業支援事業計画による創業を支援します。		鳥取県西部9市町村で策定した創業支援事業計画に基づき官民一体となって支援を行うことにより、新規創業件数を年間45件にすることを目標とします。			
参考値				現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H26	H32
—	—	—	25件	25件	45件

まちづくりの基本方向

## 1 活力を生み出す商工業の振興

## 基本計画 ② 商業の活性化

## 参考資料

県内4市の商業（卸売業・小売業）事業所数・従業者数・商品販売額の推移（単位：事業所、人、万円）

区分		平成14年	平成16年	平成19年	平成24年
米子市	事業所数	2,176	2,142	2,048	1,466
	従業者数	16,046	15,111	15,215	11,135
	年間商品販売額	46,916,532	46,920,830	43,895,835	37,687,700
鳥取市	事業所数	2,449	2,330	2,545	1,779
	従業者数	17,429	16,499	17,819	12,585
	年間商品販売額	56,812,264	55,250,020	51,409,758	34,846,700
倉吉市	事業所数	980	935	933	648
	従業者数	5,886	5,072	5,242	3,729
	年間商品販売額	13,093,892	12,612,521	11,853,802	9,018,600
境港市	事業所数	585	573	540	410
	従業者数	3,886	3,599	3,526	2,535
	年間商品販売額	13,049,632	14,022,500	13,281,094	9,561,200

&lt;資料：平成14年、16年、19年は商業統計調査、平成24年は経済センサス&gt;





# ① 『あした』がいきいき

あした  
未来の活力とにぎわいを生み出す、  
魅力あふれるまちづくり

まちづくりの基本方向

## 1 活力を生み出す商工業の振興

### 基本計画 ③ 工業の振興

#### 現況と課題

本市には、米子港・旗ヶ崎工業団地、夜見・富益工業団地、和田浜工業団地などの工業用地があり、鉄工や機械、食品などの業種が集積しています。

工業の振興にあたっては、地元企業の工場などの新增設に対する支援や既存工業団地の基盤整備などを実施してきましたが、工業団地の一部に道路などのインフラ<sup>①</sup>整備や改修が必要な区域があることから、既存工場の事業活動の円滑化と新たな企業進出のため、引き続き基盤整備を進める必要があります。

また、中海・宍道湖・大山圏域市長会と連携して海外販路開拓の支援、ビジネスマッチングの開催、圏域内企業情報データベースをインターネットで公開することで、販路拡大、技術支援など企業活動を支援してきました。

今後も、工場の新増設などの設備投資や、新規雇用による人材確保を支援し、事業規模の拡大を促進するとともに、医療分野など今後の成長が見込まれる産業への参入、独自の技術や製品の開発・製造、海外を含めた販路開拓、人材育成への取組を促進し、事業活動の活性化と経営基盤の強化を促進していく必要があります。

#### 計画目標

- 1 工業団地における道路などの基盤整備を推進します。
- 2 工場などの新增設や雇用の拡大を支援し、事業規模の拡大を促進します。
- 3 立地企業の販路開拓や技術開発、成長産業への参入、人材育成を促進し、経営基盤の強化を図ります。

#### 主な施策

##### ① 工業基盤の整備

- 工業団地の道路整備の実施

##### ② 事業規模拡大の促進

- 工場などの新增設に伴う設備投資や新規雇用への支援

##### ③ 立地企業の販路開拓や技術開発、成長産業への参入、人材育成の促進による経営基盤の強化

- 中海・宍道湖・大山圏域ものづくり連携事業ビジネスマッチング商談会の開催
- 公益財団法人鳥取県産業振興機構<sup>②</sup>との連携による支援
- 伝統産業である弓浜絊の産地維持への支援
- 圏域内企業情報データベースによる情報発信
- 海外販路開拓への支援

数値目標

指標名		工場等の新增設件数 ＜平成11年度からの累計＞			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標2】 工場などの新增設や雇用の拡大を支援し、事業規模の拡大を促進します。		本市が取組をはじめた平成11年度以降の新增設の総数です。 地元企業の工場などの新增設に伴う設備投資や新規雇用への支援を行うことにより、毎年3件ずつの新增設を図り、33件にすることを目標とします。 ※ 現状値は、平成11年度～平成27年度の累計値			
参考値				現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H27	H32
13件	15件	16件	17件	18件 (H27.9月末)	33件

指標名		ビジネスマッチング商談会エントリー企業数 ＜年間＞			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標3】 立地企業の販路開拓や技術開発、成長産業への参入、人材育成を促進し、経営基盤の強化を図ります。		中海・宍道湖・大山圏域市長会の中海・宍道湖・大山圏域ものづくり連携事業として実施するビジネスマッチング商談会にエントリーした本市の企業数です。過去3年間(平成24年度～平成26年度)の平均値から30%引き上げ、120件にすることを目標とします。 ※ 現状値は、過去3年間(平成24年度～平成26年度)の平均値			
参考値				現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H24～H26平均	H32
—	112企業	80企業	93企業	95企業	120企業



ビジネスマッチング商談会



- ①インフラストラクチャー（基盤）の略語で、学校、病院、道路、港湾、工業用地、公営住宅、橋梁、鉄道路線、バス路線、上水道、下水道、電気、ガス、電話など社会的経済基盤と社会的生産基盤とを形成するものの総称。
- ②鳥取県内企業の高度化、情報化の推進、並びに企業の創業および経営革新の支援を行い、本県産業の発展に寄与することを目的に設立された機関。

## 基本計画 ③ 工業の振興

## 参考資料

県内4市の工業（製造業）事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移（単位：事業所、人、万円）

区分		平成 21 年	平成 22 年	平成 24 年	平成 25 年
米子市	事業所数	182	172	168	154
	従業者数	5,783	5,447	5,840	5,870
	製造品出荷額等	18,689,223	13,904,199	12,732,902	14,650,434
鳥取市	事業所数	332	329	285	276
	従業者数	13,772	13,821	10,957	10,557
	製造品出荷額等	37,702,988	40,765,591	26,184,728	22,329,344
倉吉市	事業所数	102	100	94	90
	従業者数	3,700	3,672	3,349	3,400
	製造品出荷額等	7,511,180	7,525,895	7,781,159	7,868,066
境港市	事業所数	87	84	80	78
	従業者数	3,077	3,059	3,070	3,013
	製造品出荷額等	6,739,005	6,463,970	6,636,255	7,281,684

&lt;資料：工業統計調査&gt;



# ① 『あした』がいきいき

あした  
未来の活力とにぎわいを生み出す、  
魅力あふれるまちづくり

まちづくりの基本方向

## 2 圏域観光の宿泊拠点としての魅力の向上

### 基本計画 ① 観光資源の活用と発掘

#### 現況と課題

本市には、白砂青松の風景と豊富な温泉資源を有する皆生温泉地区、豊かな緑と名水に恵まれ、史跡の宝庫でもある淀江地区をはじめとし、中心市街地には米子城跡や古い町並み、ラムサール条約登録湿地である中海など多くの観光資源があります。

また、古くから山陰の交通の要衝として栄えたJR米子駅を中心としたJR路線や高速バス路線網、米子道・山陰道の高速道路網、米子空港（愛称「米子鬼太郎空港」）などの交通の結節点としての機能とともに、JR米子駅周辺には宿泊施設・飲食店・コンベンションセンター・文化ホールなど観光客にとって利便性の高い施設が集積しているという地域的特性があります。

しかし、観光地として選択されるためには、魅力ある観光資源のさらなる発掘とその活用を推進するとともに、地域産品などを活用した観光振興を推進していく必要があります。

#### 計画目標

- 1 観光資源のさらなる活用と発掘を図ります。
- 2 観光客の増加にむけた観光資源の開発を図ります。
- 3 地域産品を活用した観光振興を図ります。

#### 主な施策

##### 1 観光資源のさらなる活用と発掘

- 遺跡、史跡、文化財など歴史的価値を有する観光資源の活用
- 米子がいな祭、全日本トライアスロン皆生大会など集客力のあるイベントや郷土芸能の活用
- 民間で実施される観光振興事業への支援
- 健康・スポーツ・アニメ（ポップカルチャー）などをメニューまたはテーマとした潜在的な観光資源の発掘と活用

##### 2 観光客の増加にむけた観光資源の開発

- エコツーリズム<sup>①</sup>、スポーツツーリズム<sup>②</sup>など体験型観光の育成・振興
- 市民を対象とした地域の魅力再発見事業の推進と観光ガイドなどの人材育成

##### 3 地域産品などを活用した観光振興

- 地域特産の水産物・農林産物やご当地グルメなどを活用した観光振興



①観光や旅行を通じて自然保護や環境保全への理解を深めようという取組。

②プロスポーツの観戦者やスポーツイベントの参加者と開催地周辺の観光とを融合させ、交流人口の拡大や地域経済への波及効果などをめざす取組。





素鳳ふるさと館



日吉神社神幸神事 (よいとまかせ)



米子がいな祭



©ヨナゴフィルム

米子映画事変



郷土料理いただき



特産品どんぐりを活用して開発された地域産品

# 1 『あした』がいきいき

あした  
未来の活力とにぎわいを生み出す、  
魅力あふれるまちづくり

まちづくりの基本方向

## 2 圏域観光の宿泊拠点としての魅力の向上

### 基本計画 ② 観光客の誘致

#### 現況と課題

近年、国内観光においては、家族やグループ、個人による多様な目的をもった周遊型や体験型の旅行が増加してきており、情報取得の方法も、雑誌やテレビなど従来のメディア<sup>①</sup>に加え、パソコンや携帯端末を通して、インターネット上の各種ウェブページや有名ブログ<sup>②</sup>を活用するなど多様化が進んでいます。

また、米子空港（愛称「米子鬼太郎空港」）のソウル便や国際チャーター便、DBSクルーズフェリーの就航、大型クルーズ客船の寄港により、訪日外国人観光客が増加してきています。

このような変化に対応し、国内外から観光客を誘致するためには、県や市町村といった枠組みを越えた連携により、一つの広域的な観光エリアとして情報発信するとともに、本市の利便性や観光拠点としての魅力について、さまざまなメディアを活用した積極的なPRを展開していくとともに、ふるさと納税事業との連携など、他業務との連携も図りながら、情報を発信していく必要があります。

また、鳥取県西部圏域および中海・宍道湖・大山圏域の観光の宿泊拠点都市、北東アジアからのゲートウェイをめざし、観光客受入れのための環境整備を推進していく必要があります。

#### 計画目標

- 1 情報発信の充実と強化を図ります。
- 2 広域連携による観光誘客を推進します。
- 3 訪日外国人観光客の誘致促進を図ります。



- ①情報の記録、伝達、保管などに用いられる物や装置のこと。媒体、情報媒体などと訳されることもある。記録・保管のための媒体とコミュニケーションのための媒体とに大別することができるが、両者には重なりがある。
- ②World Wide Web上のウェブページのURLとともに覚書や論評などを加えログ（記録）しているウェブサイトのこと。
- ③Destination Marketing/Management Organizationの略。ここでは、さまざまな地域資源を組み合わせた観光地の一体的なブランドづくり、ウェブ・SNSなどを活用した情報発信・プロモーション、効果的なマーケティング、戦略策定などについて、地域が主体的に行う観光地域づくりの推進主体のこと。
- ④規模を大きくすることにより得られる効果のこと。特に経済で、経営規模が大きいほど生産性や経済効率が向上することをいう。

## 主な施策

### 1 情報発信の充実と強化

- インターネットを活用した情報発信の充実・強化
- 人口集積地に対する観光 PR の実施
- マスコミへの情報提供
- ふるさと納税事業と一体化した情報発信
- 地域おこし協力隊によるポップカルチャー、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を活用した情報発信

### 2 広域連携による観光誘客の推進

- 鳥取県西部圏域における DMO<sup>③</sup>設立をめざした取組の推進
- 広域観光圏でのスケールメリット<sup>④</sup>をいかした観光 PR の実施
- 滞在型観光の宿泊拠点都市としての観光ルートの確立および PR の実施

### 3 訪日外国人観光客の誘致促進

- 外国人誘致を実施している山陰国際観光協議会などへの活動支援
- 観光関連施設の受入態勢の整備促進
- 観光案内標識、パンフレットなどの整備
- 銀聯カード<sup>（ぎんれん）</sup>の利用環境の整備および免税店舗数の拡大



地域おこし協力隊

## 数値目標

指標名		米子・皆生温泉周辺の観光客入込み客数 <年間>			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標1】 情報発信の充実と強化を図ります。		広域観光の推進や皆生温泉の観光的魅力の情報発信などを行うことにより、観光客入込み客数を過去5年間（平成22年～平成26年）の最高値と同レベルまで引き上げることを目標とします。 ※ 現状値は、過去5年間（平成22年～平成26年）の平均値			
参考値				現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H22～H26平均	H32
163.9万人	178.6万人	153.6万人	139.4万人	158.7万人	178万人

指標名		皆生温泉の外国人宿泊客数 <年間>			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標3】 訪日外国人観光客の誘致促進を図ります。		誘致活動を促進することにより、皆生温泉旅館組合に加盟する旅館・ホテルに宿泊する外国人宿泊客数を毎年10%ずつ増やし、18,800人にすることを目標とします。			
参考値				現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H26	H32
3,495人	5,945人	8,826人	10,628人	10,628人	18,800人



# ① 『あした』がいきいき あした 未来の活力とにぎわいを生み出す、魅力あふれるまちづくり

## まちづくりの基本方向 2 圏域観光の宿泊拠点としての魅力の向上

### 基本計画 ③ 皆生温泉の魅力づくり

#### 現況と課題

皆生温泉は、旅館・ホテル・日帰り温浴施設などが集積する温泉街ですが、宿泊客数は平成9（1997）年の71万人をピークに減少を続け、平成24（2012）年にはついに40万人を割り込む状況となりました。これは、団体旅行から個人旅行へのシフトや、観光客の旅行先での目的の変化などから、温泉だけで誘客することが難しくなってきたためであると考えられます。

そこで、観光客の多様なニーズに応えるため、環境整備を推進し、サービスの充実を図り、温泉の泉質や日本海に臨む白砂青松の雄大な風景、それを利用したさまざまなツーリズムを提供するとともに、「皆生温泉は山陰のド真ん中」という山陰の周遊観光の利便性も積極的に取り上げ、宿泊地として選択されるよう、独自の魅力を発信していく必要があります。

また、温泉、海水浴などで市民にも親しまれていた、かつての皆生温泉街のように、観光客の誘客と同時に市民の利用による活性化も促進していく必要があります。

さらに、選ばれる温泉地、温泉文化を愉しむ風情ある温泉地をめざすため、皆生温泉旅館組合が本市と連携して取り組む「皆生温泉まちあるき環境整備事業」を支援していく必要があります。

#### 計画目標

- 1 海浜、泉質を利用した皆生温泉の魅力づくりを図ります。
- 2 皆生温泉まちあるき環境整備事業を支援します。
- 3 情報発信、PR イベントなどにより誘客促進策の充実を図ります。
- 4 官民が連携した観光施策および環境整備を推進します。



全日本トライアスロン皆生大会



皆生温泉 潮風の足湯

## 主な施策

### 1 海浜、泉質を利用した皆生温泉の魅力づくり

- 海岸遊歩道の活用
- 泉質、効能の有効活用

### 2 皆生温泉まちあるき環境整備事業の支援

- 皆生温泉ランドデザインに基づく皆生温泉まちあるき環境整備事業の推進
- 米子市観光センターの整備

### 3 情報発信、PR イベントなどによる誘客促進策の充実

- 継続できるイベントの開発と支援
- 全日本トライアスロン皆生大会、皆生・大山 SEA TO SUMMIT の開催支援
- 皆生海水浴場の PR と開設支援
- 外国人観光客に対応したホームページの整備

### 4 官民が連携した観光施策および環境整備の推進

- 官民が連携した環境整備
- 米子市観光センターの充実した活用
- 周辺観光地、駅、空港などへのアクセスの改善

## 数値目標

指標名		皆生温泉宿泊者数(入湯税対象者数) <年間>			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標3】 情報発信、PRイベントなどにより誘客促進策の充実を図ります。		皆生温泉の宿泊者数は平成9年をピークに減少し続けており、平成14年から50万人を下回る状態が続いていることから、観光客の誘致を促進する取組を行うことによって、過去5年間(平成22年～平成26年)の最高値と同レベルまで引き上げることが目標とします。 ※ 現状値は、過去5年間(平成22年～平成26年)の平均値			
参考値		現状値		目標値	
H23	H24	H25	H26	H22～H26平均	H32
43.5万人	40.0万人	47.5万人	42.8万人	44.0万人	47.5万人



皆生横丁 きないや



米子市観光センター



# 1 『あした』がいきいき

あした  
未来の活力とにぎわいを生み出す、  
魅力あふれるまちづくり

まちづくりの基本方向

## 2 圏域観光の宿泊拠点としての魅力の向上

### 基本計画 ④ 淀江地区の魅力づくり

#### 現況と課題

淀江地区には、国指定文化財である石馬、上淀廃寺跡、向山古墳群、妻木晩田遺跡、鳥取藩台場跡をはじめとする重要文化財や史跡、日本名水百選の「天の真名井」、因伯の名水「本宮の泉」に代表される清らかな湧き水、海や山の恵み、緑豊かな自然と多くの魅力あふれる資源があります。

また、日吉神社神幸神事、淀江さんご節、よどえ和傘、上淀の八朔行事など、幾多の変遷を経て現在まで住民の力で支え、受け継がれてきた伝統や文化があります。

この地区の資源を活用し、魅力を発信するため、観光・文化施設として白鳳の里、淀江ゆめ温泉、伯耆古代の丘公園、上淀白鳳の丘展示館、淀江どんぐり村などが整備され、県内外から多くの人々が訪れています。

しかし、観光客の価値観やニーズの多様化などにより、これらの施設の利用者は年々減少してきていることから、それぞれの施設の特質をさらに磨き上げ、連携を図ることによって、時代にマッチした魅力の創出と、それらの施設を活用したニューツーリズムを提供し、地域に密着した市民にとっても利用しやすい施設として活用することが必要になっています。

また、淀江地区の活性化のためには、地元の特産品をいかした地域ブランドの育成とPR、淀江の旬な情報の積極的な発信などにより、地域としての魅力をアピールしていく必要があります。

#### 計画目標

- 1 地域資源を連携させた観光ルートの開発と魅力の発信により誘客を図ります。
- 2 淀江地区の特産品の発掘・振興を図ります。
- 3 淀江地区の伝統・文化の継承を図ります。

#### 主な施策

##### 1 地域資源を連携させた観光ルートの開発と魅力発信

- 地区の観光資源の魅力向上および既存の観光ポイントとの連携強化
- 観光ガイドマップの作成
- フェイスブックなどを活用した情報発信
- 観光・文化施設の再編整備

##### 2 淀江地区の特産品の発掘・振興

- 関係団体と連携した海産物、農畜産物などの販路拡大と全国への情報発信
- 地域の農水産物の加工品などの地域ブランドの開発・育成

##### 3 淀江地区の伝統文化の継承

- 淀江地区の伝統文化（淀江さんご節、日吉神社神幸神事、上淀の八朔行事など）の継承と情報発信
- よどえ和傘製造技術の伝承支援

## 数値目標

指標名		淀江地区の観光施設、歴史文化施設の年間入込み客数			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標1】 地域資源を連携させた観光ルートの開発と魅力の発信により誘客を図ります。		淀江地区の観光施設、歴史文化施設の連携を進め、淀江ゆめ温泉、伯耆古代の丘公園、上淀白鳳の丘展示館、どんぐり村、妻木晩田史跡公園への延べ入込み客数を、ピーク時(平成21年度)の40万人まで引き上げることを目標とします。			
参考値				現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H26	H32
37.9万人	36.2万人	32.1万人	30.6万人	30.6万人	40万人



妻木晩田遺跡



淀江ゆめ温泉



天の真名井



よどえ和傘

## 参考資料

## 「よどえまるごと道草日和」

淀江地区の魅力の再発見・発信を目的に、地域みなさんが企画運営を行う“ちいさな体験型イベント”を集めた「よどえまるごと道草日和」を開催しています。



# 1 『あした』がいきいき

あした  
未来の活力とにぎわいを生み出す、  
魅力あふれるまちづくり

まちづくりの基本方向

## 2 圏域観光の宿泊拠点としての魅力の向上

### 基本計画 ⑤ コンベンションの誘致

#### 現況と課題

コンベンション開催による経済波及効果は非常に大きいため(平成26(2014)年度 本市への経済波及効果 約17.2億円)、全国各地にコンベンション施設や誘致組織が整備されています。

これによって、開催地の誘致競争は激化しており、各種の大会・会議などの開催地として選択されるためには、良質なサービス、街の魅力、利便性などが求められています。

このため、本市における会場機能の改善と充実を図るとともに、誘致の専門機関である「とっとりコンベンションビューロー」への活動支援、宿泊施設の確保や運営支援などの受入態勢の整備、アフターコンベンション<sup>①</sup>や、まちなか観光の充実に努め、誘致を促進するとともに、本市へのリピーターになっていただくため、心のこもった歓待やサービスなど「おもてなし」の向上に努めていく必要があります。

#### 計画目標

- 1 受入態勢の整備・充実を図ります。
- 2 コンベンション誘致活動を支援します。
- 3 アフターコンベンションの充実を図ります。

#### 主な施策

##### 1 受入態勢の整備・充実

- 米子コンベンションセンター以外の施設活用による会場の確保
- コンベンション開催のための運営ボランティアおよび民間支援組織の振興
- 宿泊・飲食施設などとの連携強化

##### 2 コンベンション誘致活動の支援

- コンベンション開催団体に対する助成制度の適用
- とっとりコンベンションビューローへの活動支援

##### 3 アフターコンベンションの充実

- 観光施設などとの連携強化
- 観光情報の提供



①コンベンション開催後の観光、催し、懇親会などで開催地への経済効果が期待されるもの。「コンベンション」は、会議、集会、大会などの総称。

## 数値目標

指標名	コンベンション誘致件数 ＜年間＞					
対応する計画目標	指標の説明					
【計画目標2】 コンベンション誘致活動を支援します。	各種コンベンションの開催により、大きな経済波及効果が期待できることから、誘致活動の支援などを図り、米子コンベンションセンター（ビッグシップ）で開催されるコンベンションの誘致件数を、過去5年間（平成22年度～平成26年度）の最高値と同レベルまで引き上げることを目標とします。 ※ 現状値は、過去5年間（平成22年度～平成26年度）の平均値					
参考値				現状値		目標値
H23	H24	H25	H26	H22～H26平均		H32
82件	95件	131件	87件	93件		131件

指標名	コンベンション参加者数 ＜年間＞					
対応する計画目標	指標の説明					
【計画目標2】 コンベンション誘致活動を支援します。	コンベンションの参加者数の増加は観光産業や地域経済の活性化につながると考えられていることから、過去5年間（平成22年度～平成26年度）の最高値と同レベルまで引き上げることを目標とします。 ※ 現状値は、過去5年間（平成22年度～平成26年度）の平均値					
参考値				現状値		目標値
H23	H24	H25	H26	H22～H26平均		H32
21,403人	30,049人	35,233人	26,818人	27,132人		35,000人



米子コンベンションセンター（ビッグシップ）



# ① 『あした』がいきいき

あした  
未来の活力とにぎわいを生み出す、  
魅力あふれるまちづくり

まちづくりの基本方向

## 3 地域を支える農業・漁業の振興

### 基本計画 ① 次世代につなぐ持続可能な農業の推進

#### 現況と課題

本市の農業は、土壌の分布状況から、弓浜半島の畑作地帯と南部および淀江地区の水田地帯に分かれています。

弓浜半島の畑作地帯は、野菜などの生産地として、主に白ねぎやにんじんなどの特産品の生産が行われていますが、全体的に、ほ場<sup>①</sup>が小さく、基盤整備が進んでいないことから規模拡大が難しく、後継者不足や高齢化、それに伴う荒廃農地<sup>②</sup>の発生などが問題となっています。

一方、南部および淀江地区は、稲作を中心とした水田地帯と山沿いの樹園地で梨や柿などの生産が行われていますが、畑作地帯と同様に後継者不足や高齢化が問題となっています。認定農業者を中心とした担い手への農地の集積は、箕蚊屋地域など一部では比較的進んでいますが、他の地域では担い手不足のため農地の集積が進んでいない状況です。

このため、鳥取県や鳥取西部農業協同組合、鳥取県農業農村担い手育成機構などの関係機関と連携しながら、認定農業者や新規就農者など多様な担い手を育成・確保するとともに、担い手への農地集積の推進、経営規模の拡大による農業経営の安定化や特産農産物の生産振興、農業の6次産業化、地産地消など持続可能な農業を推進していく必要があります。

#### 計画目標

- 1 多様な担い手の育成・確保を図ります。
- 2 農業経営の安定化を図ります。
- 3 優良農地の保全と利用集積を促進します。
- 4 農産物の地産地消を推進します。



にんじん畑



白ねぎ畑





## 主な施策

### 1 多様な担い手の育成・確保

- 認定農業者の育成
- 新規就農者・親元就農者の支援
- 法人の農業参入の促進
- 集落営農の推進
- 農業に携わる青年の活動の支援

### 2 農業経営の安定化

- 水田のフル活用による主食用米、飼料用米、大豆、白ねぎ、ブロッコリーなどの生産振興
- 白ねぎ、ブロッコリー、にんじん、かんしょ、梨、柿など特産物のブランド推進と生産振興
- 地元農産物の6次産業化の促進
- 畜産振興を図る施策の推進
- 有害鳥獣対策の推進

### 3 優良農地の保全と利用集積の促進

- 農地中間管理事業や利用権設定等促進事業による農地の利用集積の促進
- 荒廃農地の発生防止、解消対策の推進
- 農業・農村の有する自然環境の保全や水源かん養などの多面的機能の維持・発揮の推進

### 4 農産物の地産地消の推進

- 学校給食における地元農産物使用の推進
- 生産者と消費者とのふれあい支援
- 地産地消に関する情報の発信

## 【関連する個別計画】 農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想 米子市水田フル活用ビジョン

### 数値目標

指標名		多様な担い手の数			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標1】 多様な担い手の育成・確保を図ります。		本市が取組をはじめた平成5年度以降の担い手の総数です。 農業を持続的に発展させ、次世代につないでいくためには、多様な担い手（認定農業者・認定新規就農者・農業生産法人・集落営農組織など）を育成・確保することが必要であることから、毎年10経営体ずつ増やし、179経営体にすることを目標とします。			
参考値				現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H26	H32
117経営体	115経営体	125経営体	129経営体	129経営体	179経営体



①作物を栽培する田畑。農園。

②現に耕作されておらず、耕作の放棄により荒廃し、通常の農作業では作物の栽培が客観的に不可能となっている農地。

## 基本計画 ① 次世代につなぐ持続可能な農業の推進

## 数値目標

指標名		農地の流動化面積 <sup>①</sup>			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標3】 優良農地の保全と利用集積を促進します。		担い手農家への農地集積・集約化による生産性向上や農地の有効利用を図るため、農地中間管理事業および利用権設定等促進事業により、農地の流動化面積を毎年50ha増やし、793haにすることを目標とします。			
参考値				現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H26	H32
461ha	491ha	532ha	543ha	543ha	793ha

指標名		荒廃農地の面積			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標3】 優良農地の保全と利用集積を促進します。		農地の保全と有効利用を図るため荒廃農地の削減に努め、毎年20haずつ解消し、60haにすることを目標とします。			
参考値				現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H26	H32
210ha	169ha	151ha	160ha	160ha	60ha



①農地の賃貸借・売買などで権利移動した面積。

# 1 『あした』がいきいき

あした  
未来の活力とにぎわいを生み出す、  
魅力あふれるまちづくり

まちづくりの基本方向

## 3 地域を支える農業・漁業の振興

### 基本計画 ② 農業基盤整備の推進

#### 現況と課題

近年、農業用排水路や農道、ため池などの土地改良施設は、農業従事者の高齢化や担い手の不足による施設維持にかかる管理能力の低下や施設の老朽化などさまざまな問題を抱えています。

これらの問題を解消するために、土地改良施設の基盤整備や施設機能の維持・向上にむけた機能保全対策による長寿命化を図るなど、農業の生産性の向上や担い手の育成・確保の契機となる農業基盤整備を計画的に推進していく必要があります。

#### 計画目標

1 農業生産性向上を図るため、土地改良施設などの農業基盤整備を図ります。

#### 主な施策

##### 1 農業基盤整備の推進

- 農業農村整備事業の推進
- 農業用排水路および水利施設整備の推進
- 農道の改良・舗装の推進
- ため池の維持・補修の推進



農道の整備（彦名地区農道）



ため池の整備（古市大池）

# ① 『あした』がいきいき

あした  
未来の活力とにぎわいを生み出す、  
魅力あふれるまちづくり

まちづくりの基本方向

## 3 地域を支える農業・漁業の振興

### 基本計画 ③ 海面漁業の振興

#### 現況と課題

本市の海面漁業は刺網を中心とした沿岸漁業ですが、周辺水域における漁業環境は、海水温の上昇などによる漁場の悪化や水産資源の減少、魚価の低迷、漁業従事者の高齢化、後継者不足、燃油の高騰など、依然として厳しい状況にあります。

本市では、魚礁の設置や稚魚・稚貝の放流などによる水産資源の育成と確保を図っており、今後も、引き続き、稚魚・稚貝の放流などによる「つくり育てる漁業」を推進し、安定的な漁獲を得ることに加えて、6次産業化への道を開くことにより販売金額の増加を図る取組を進めていく必要があります。

#### 計画目標

- 1 漁業資源の確保および販売金額の増加を図ります。
- 2 漁業後継者の確保および育成を図ります。

#### 主な施策

- 1 漁業資源の確保および販売金額の増加
  - 漁協などが実施する稚魚・稚貝などの放流事業に対する助成
- 2 後継者の確保および育成
  - 漁協が実施する担い手の確保および漁労技術の習得研修などに対する助成



淀江漁港



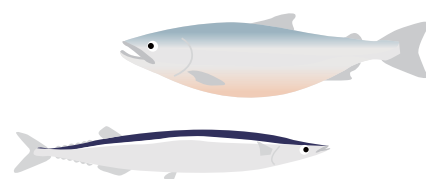
数値目標

指標名		年間漁業販売金額			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標1】 漁業資源の確保および販売金額の増加を図ります。		鳥取県西部の漁協や行政機関で構成する「鳥取県西部地域水産業再生委員会」が、平成26年度に策定した「浜の活力再生プラン」の目標に従い、米子市漁協と鳥取県漁協淀江支所の年間漁業販売金額を10%引き上げ、2.9億円にすることを目標とします。			
参考値				現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H26	H32
2.5億円	2.4億円	2.8億円	2.6億円	2.6億円	2.9億円

指標名		新規漁業就業者の育成件数 ＜平成28年度から平成32年度の合計＞			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標2】 漁業後継者の確保および育成を図ります。		市内の漁協が実施する担い手研修(3年間)を修了し、高齢化した漁業従事者に代わる新規担い手として就業する漁業者を、計画期間内に5人育成することを目標とします。			
参考値				現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H27	H32
—	—	—	—	0人	5人



ヒラメの放流



# ① 『あした』がいきいき

あした  
未来の活力とにぎわいを生み出す、  
魅力あふれるまちづくり

まちづくりの基本方向

## 3 地域を支える農業・漁業の振興

### 基本計画 ④ 内水面漁業の振興

#### 現況と課題

内水面漁業を取り巻く環境は、水量の減少や生息・産卵適地の減少、水質悪化など大変厳しい状況にあり、限られた区域で資源の確保を図るためには、淡水魚の積極的な保護増殖を行うとともに、産卵場整備など河川環境の改善などにも取り組んでいく必要があります。

今後も、内水面漁業の振興を図るため、育成放流事業や生態などの研究事業を促進し、漁場改善にむけて住民や事業所の理解と協力を得ていく必要があります。

#### 計画目標

① 淡水魚の保護・増殖を図ります。

#### 主な施策

##### ① 淡水魚の保護・増殖

- 漁協が実施する淡水魚育成放流事業（人工種苗の放流、産卵場整備および食害対策など）に対する助成
- 稚魚の安定的な生産に寄与する淡水魚試験研究育成施設の適切な管理
- 漁協が実施する淡水魚試験研究育成事業（淡水魚の種苗生産、増殖および試験研究）に対する助成

数値目標

指標名		人工生産する稚鮎数 <年間>			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標1】 淡水魚の保護・増殖を図ります。		健康的な稚魚の安定的な生産技術の確立を図る必要があることから、人工生産する稚鮎数を10万尾増やし、320万尾にすることを目標とします。			
参考値				現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H26	H32
170万尾	220万尾	295万尾	310万尾	310万尾	320万尾



鮎の放流



鮭の放流

# 1 『あした』がいきいき

あした  
未来の活力とにぎわいを生み出す、  
魅力あふれるまちづくり

まちづくりの基本方向

## 4 中心市街地の活性化

### 基本計画 ① 中心市街地活性化の推進

#### 現況と課題

本市の中心市街地は、長い歴史のなかで行政、経済、文化、教育、医療、福祉、娯楽などのさまざまな都市機能が集積されるとともに、道路、鉄道などの交通網も中心市街地を起点に整備され、地域における社会経済活動や文化・市民活動などの中心としての役割を果たしてきました。

しかしながら、宅地開発による市街地の拡散や車社会の進展などによる商業施設の郊外立地、消費行動の変化などにより、居住人口の減少や空き店舗の増加など空洞化が生じることになりました。

本市においては、平成20（2008）年に「米子市中心市街地活性化基本計画」を策定し、86の事業に取り組んだ結果、にぎわいの創出や回遊する環境が整いつつあり、活性化の兆しが見えてきました。

中心市街地活性化は、短期的に成し得る課題ではなく、今後も継続して取り組んでいくべき課題であることから、平成27（2015）年に「米子市中心市街地活性化基本計画（新計画）」を策定しました。「人が集まり、歩いて楽しむ、元気に暮らせる中心市街地」をめざし、中心市街地の活性化を推進していく必要があります。

#### 計画目標

- 1 人が集いにぎわうまちをつくります。
- 2 歴史や文化、自然に触れ合えるまちをつくります。
- 3 住みたくなるまちをつくります。

#### 主な施策

- 1 人が集いにぎわうまちづくり
  - 米子駅南北自由通路の整備
  - 米子駅南広場の整備
  - にぎわいのある商店街づくり事業
  - まちなかビジネス支援事業
- 2 歴史や文化、自然に触れ合えるまちづくり
  - 山陰歴史館の整備
  - 米子城跡の整備
  - 公会堂の利用促進
- 3 住みたくなるまちづくり
  - 中心市街地活性化情報発信事業
  - 交通バリアフリー推進事業
  - だんだんバスの運行

#### 【関連する個別計画】 米子市中心市街地活性化基本計画（新計画）

※ 米子市中心市街地活性化基本計画（新計画）に位置づけた民間との連携事業は、74頁に記載しています。



## 数値目標

指標名		歩行者等通行量(自転車を含む)			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標1】 人が集いにぎわうまちをつくれます。		中心市街地(調査地点12箇所)の平日・休日(各1回)の2日間に通行した歩行者(自転車を含む)の合計人数です。にぎわいのある中心市街地の形成を図ることによって、歩行者などの通行量を255人増やし、13,200人にすることを目標とします。			
参考値				現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H26	H32
-	-	-	12,945人	12,945人	13,200人

指標名		駐車場の年間利用台数(時間貸しのみ)			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標1】 人が集いにぎわうまちをつくれます。		中心市街地の有料駐車場(9箇所)の年間利用台数です。人が集い、にぎわいのある中心市街地の形成を図ることによって、駐車場の利用台数を16,692台増やし、1,515,000台にするを目標とします。			
参考値				現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H26	H32
1,387,417台	1,396,725台	1,445,477台	1,498,308台	1,498,308台	1,515,000台

指標名		文化施設の年間利用者数			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標2】 歴史や文化、自然に触れ合えるまちをつくれます。		文化ホール、公会堂、コンベンションセンター、山陰歴史館、美術館、図書館、児童文化センターの利用者数です。歴史や文化に触れることができ、魅力をもった中心市街地の形成を図ることによって、文化施設の年間利用者数を1,683人増やし、1,140,000人にするを目標とします。			
参考値				現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H25	H32
1,095,621人	1,189,317人	1,138,317人	1,102,496人	1,138,317人	1,140,000人

## 基本計画 ① 中心市街地活性化の推進

## 数値目標

指標名		下町観光ガイドの年間利用者数			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標2】 歴史や文化、自然に触れ合えるまちをつくりまします。		中心市街地を訪れる観光客を案内する「下町観光ガイド」の年間利用者数です。歴史や文化に触れることができ、魅力をもった中心市街地の形成を図ることによって、下町観光ガイドの利用者数を424人増やし、1,380人にすることを目標とします。			
参考値				現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H26	H32
877人	1,018人	1,180人	956人	956人	1,380人

指標名		中心市街地の人口の社会増減					
対応する計画目標		指標の説明					
【計画目標3】 住みたくなるまちをつくりまします。		中心市街地の各年3月末時点の人口の社会増減数です。住む場所としての魅力が感じられる中心市街地の形成を図ることによって、中心市街地の人口の社会増減を-5人(平成22年～平成27年の平均)から、1人以上(平成28年～平成33年の平均)にすることを目標とします。					
参考値						現状値	目標値
H22	H23	H24	H25	H26	H27	H22～H27平均	H28～H33平均
-7人	18人	13人	3人	-14人	-41人	-5人	1人以上



環境整備された元町通り商店街



サービス付高齢者向け住宅 まちなか



まちづくりの基本方向

### 4 中心市街地の活性化

## 基本計画 ① 中心市街地活性化の推進

参考資料

### 米子市中心市街地活性化基本計画(新計画)区域図 (計画期間 平成27年2月から平成33年3月末まで)

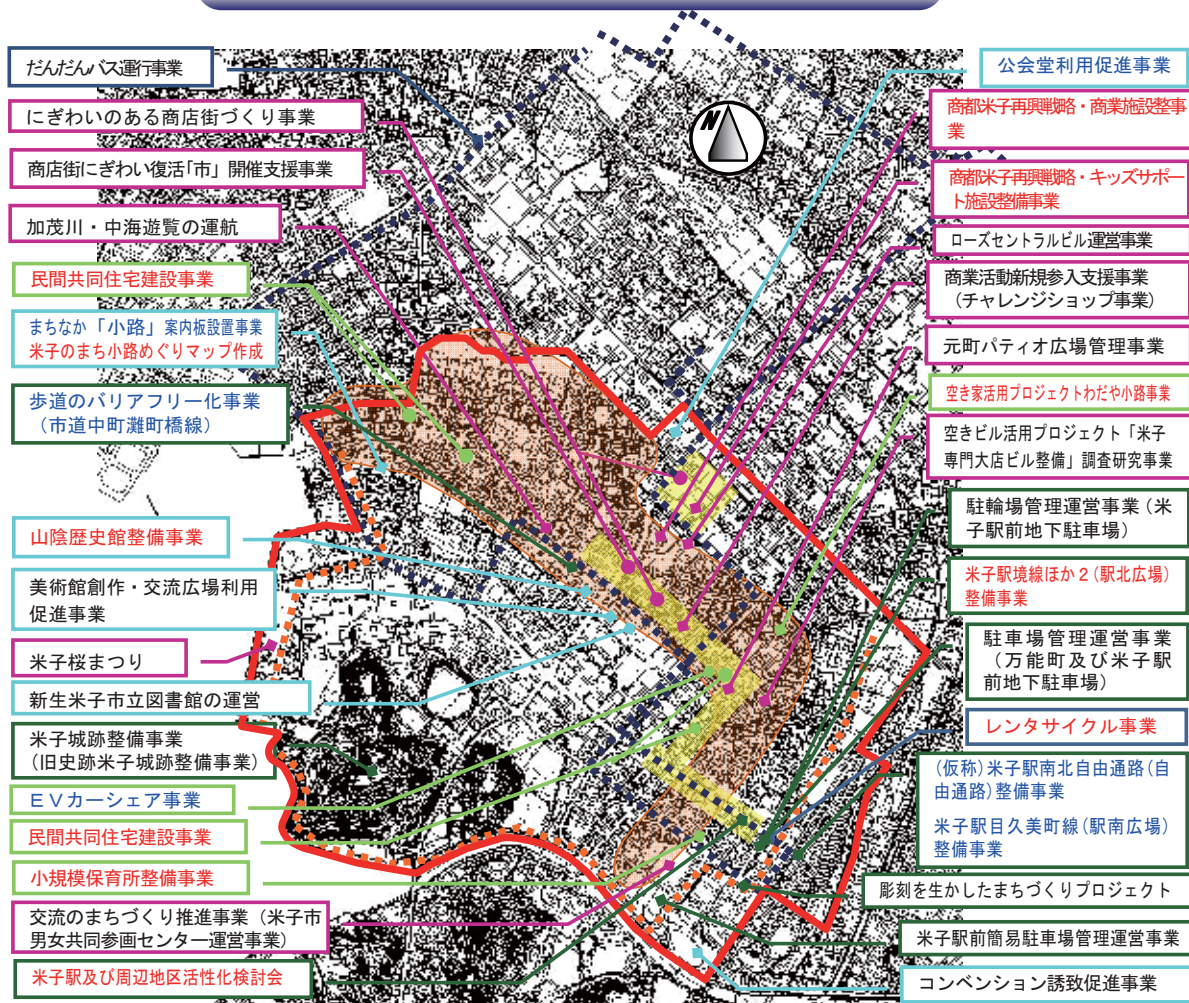
：中心市街地の区域(196ha)を示す





基本計画 ① 中心市街地活性化の推進

事業及び措置の実施箇所



- ＜全市又は中心市街地の区域で行うその他の事業＞
- ◆市街地の整備改善のための事業
    - ・交通バリアフリー推進事業
  - ◆街なか居住の推進のための事業
    - ・移住定住推進事業（お試し住宅）
    - ・超小型モビリティ導入実証実験事業
    - ・中心市街地空きビル等調査事業
    - ・小規模保育所設置促進補助事業
    - ・まちなか空家活用プロジェクト
    - ・空き家見守りサービス事業
    - ・加茂川を美しくする運動連絡協議会清掃活動
    - ・高齢者地域コミュニティ支援事業
    - ・移住定住窓口の設置
  - ◆都市機能福祉施設整備のための事業
    - ・もっと知りたい米子城事業
    - ・よなご88探宝会
    - ・米子の町家・町並み保存再生プロジェクト
  - ◆商業活性化のための事業
    - ・よなごまちなかコミュニティ活性化支援事業
    - ・地方創生に向けて“がんばる地域”応援事業
    - ・情報通信及び事務管理関連企業立地促進補助
    - ・創業された方応援します事業
    - ・地域おこし協力隊活用事業
    - ・まちなかテベロッパ―事業
    - ・今日、どこ行こう？乗る人すべてに感動を！まちなかを風を感じながら走ろうよ事業
    - ・まちなかビジネス支援事業
    - ・YONAGO WONDER 情報発信事業
    - ・コンベンション開催支援事業
    - ・米子市中心市街地総合情報発信事業
    - ・中心市街地活性化情報発信事業（まちなかなう事業、まちなかモニターツアー）
    - ・米子下町観光ガイド
    - ・魅力ある商店街づくり事業
    - ・米子がいな祭り

**凡例**

●	市街地の整備改善	●	事業実施箇所及び事業名 (ただし、●は商店街を対象に行う事業)
●	都市福祉施設整備に関する事業	■ ■ ■ ■	だんだんバス路線
●	街なか居住推進に関する事業	■ ■ ■ ■	彫刻ロード
●	商業活性化に関する事業	■ ■ ■ ■	中心市街地の区域 (196ha)
●	公共交通施設整備に関する事業	■ ■ ■ ■	商店街

※ 赤字：新規事業 青字：継続事業（H26以降の新規） 黒字：継続事業



# 1 『あした』がいきいき

あした  
未来の活力とにぎわいを生み出す、  
魅力あふれるまちづくり

まちづくりの基本方向

## 5 時代をひらく新たな産業の育成

### 基本計画 ① 産学金官連携の推進

#### 現況と課題

産業の高度化が進んでおり、産学金官共同研究などを促進し、地元企業の新商品開発や技術向上、新分野の進出を支援することが求められています。

このため、鳥取大学や鳥取環境大学、米子工業高等専門学校などの学術機関、公益財団法人鳥取県産業振興機構、地方独立行政法人鳥取県産業技術センターなどの公的試験機関、地元金融機関などと連携し、企業が利用できる研究・技術シーズ<sup>①</sup>の紹介や産学金官の交流を促進していく必要があります。

#### 計画目標

1 産学金官の連携を推進します。

#### 主な施策

##### 1 産学金官連携の推進

- 鳥取大学や鳥取環境大学、米子工業高等専門学校などの学術機関、公益財団法人鳥取県産業振興機構、地方独立行政法人鳥取県産業技術センターなどの公的試験機関、地元金融機関などとの連携充実の推進
- 新商品開発や技術向上、新分野進出のための連携充実の促進

#### 数値目標

指標名	地元企業の産学金官連携事業の数 <平成14年度からの累計>				
対応する計画目標	指標の説明				
【計画目標1】 産学金官の連携を推進します。	本市が取組をはじめた平成14年度以降の連携事業の総数です。 公益財団法人鳥取県産業振興機構などと連携して取り組んでいる地元企業の産学金官連携事業の新規連携事業を毎年2件ずつ増やし、38件にすることを目標とします。				
参考値				現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H26	H32
20件	23件	25件	28件	28件	38件



①産学金官連携のもとになる、研究者の「研究」テーマ一つひとつのこと。「シーズ」は種のことである。

# ① 『あした』がいきいき

あした  
未来の活力とにぎわいを生み出す、  
魅力あふれるまちづくり

まちづくりの基本方向

## 5 時代をひらく新たな産業の育成

### 基本計画 ② 新たな産業・成長産業の創出

#### 現況と課題

経済活動のグローバル化などにより産業構造の変化が急速に進んでおり、本市においても1次産業の衰退、中小小売業者などの売上低下、大手小売業者の地方進出やネット通販などの隆盛による市外への資金流出などの傾向がみられます。

農商工連携や6次産業化など地域資源をいかした取組による新たな産業や成長産業、先端技術産業の分野を中心とした産業の創出により地域内資金循環できるバランスの良い経済・産業の構造転換にむけた対応を推進していく必要があります。

#### 計画目標

- 1 地域資源を活用し農商工連携・6次産業化などの新たな産業や成長産業、先端技術産業の分野を中心とした産業の創出に取り組みます。

#### 主な施策

##### ① 新たな産業や成長産業、先端技術産業の分野を中心とした産業の創出

- 新たな産業や成長産業、先端技術産業の分野を中心とした産業の創出支援
- 農林水産業と商業・工業が連携して商品開発などに取り組む農商工連携の推進
- 農林水産業就業者自らが加工・製造・流通・販売までを主体的に取り組む6次産業化の推進



地域エネルギー一会社事業推進協定書調印式



数値目標

指標名		新規農商工連携・6次産業化取組件数 ＜平成23年度からの累計＞			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標1】 地域資源を活用し農商工連携・6次産業化などの新たな産業や成長産業、先端技術産業の分野を中心とした産業の創出に取り組みます。		本市が取組をはじめた平成23年度以降の取組総数です。 農林水産業就業者自らが加工・製造・流通・販売まで主体的に取り組む6次産業化や農林水産業と商業・工業が連携して商品開発などに取り組む農商工連携による新たな事業への取組件数(補助制度を活用するもの)を毎年2件程度増やし、19件にすることを目標とします。			
参考値				現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H27	H32
2件	5件	7件	7件	9件	19件



開発された6次産業化製品

# ① 『あした』がいきいき

あした  
未来の活力とにぎわいを生み出す、  
魅力あふれるまちづくり

まちづくりの基本方向

## 6 企業立地の促進

### 基本計画 ① 企業誘致の推進

#### 現況と課題

本市では、近年、国内トップシェアをもつ絶縁紙製造業者や高級和菓子製造業者、大規模太陽光発電所を運営する会社、産業・医療用ロボットの研究、開発をしている会社、また福利厚生代行サービス会社をはじめとする事務系企業が進出しました。

また、本市がこれまでに誘致した企業の増設も図られるなど、この間の企業誘致活動や支援策の成果が現れているところです。

安定した雇用の創出や正規雇用の増加および地域外への人口流出の抑制につながる誘致企業の立地を着実に実現することが今後も重要であることから、本市の特性を最大限にいかしながら、立地に適した工業用地や支援策などを企業に提案し、引き続き、企業誘致を推進していく必要があります。

#### 計画目標

- 1 本市への企業誘致を推進します。
- 2 誘致企業の設備整備などを支援します。
- 3 企業立地に適した工業用地の確保を図ります。

#### 主な施策

##### 1 企業誘致活動の推進

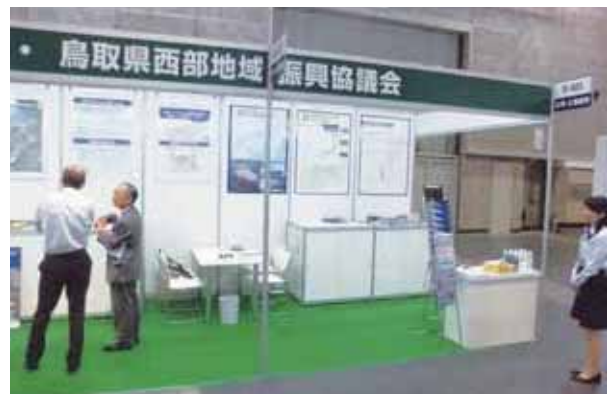
- 米子市関西事務所の活動、ふるさと経済活性化委員を活用した情報の収集と誘致活動の推進
- 鳥取県と連携した情報収集と誘致活動の推進
- 鳥取県西部地域振興協議会と連携した情報収集と誘致活動の推進

##### 2 誘致企業への支援

- 工業用地、雇用確保への協力・支援
- 設備投資などに対する支援

##### 3 工業用地の確保

- 企業の立地動向に合わせた工業用地の確保
- 新たな工業用地の確保にむけた取組



関西機械要素技術展での出展ブース



数値目標

指標名		誘致企業数 ＜平成元年度からの累計＞			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標1】 本市への企業誘致を推進します。		本市が取組をはじめた平成元年以降の誘致企業の総数です。 地域経済の活性化や地域外への人口流出を抑制するなどの波及効果が期待できることから、毎年2社を誘致し、39社にすることを目標とします。			
参考値				現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H26	H32
19社	24社	26社	29社	29社	39社



近年の誘致企業

# 1 『あした』がいきいき

あした  
未来の活力とにぎわいを生み出す、  
魅力あふれるまちづくり

まちづくりの基本方向

## 7 雇用環境の整備

### 基本計画 ① 雇用の安定と創出

#### 現況と課題

リーマンショック以降の金融・経済情勢の悪化による景気後退により、ハローワーク米子管内の有効求人倍率は低下していましたが、平成25(2013)年10月に1.0倍を回復し、その後は1.0倍を超えた状態が続いています。

しかしながら、求人側と求職者間のニーズが一致しない雇用のミスマッチなどにより、依然として若年層を中心とした労働力の大都市圏などへの県外流出が見られます。

とりわけ、若年層の人口減は、人口全体の増減に大きな影響を与えることから、高校生や進学のため転出した本市出身の大学生などの地元への就労を支援することが喫緊の課題となっています。

また、雇用の創出に対する市民のニーズは高いことから、国、県、中海・大山圏域市町村などの関係機関と連携を図りながら、引き続き、企業誘致や地場産業の活性化などによる地元雇用の促進を図るとともに、労働条件の改善の促進やワーク・ライフ・バランス<sup>①</sup>の推進、若者・女性・高齢者・障がい者の雇用環境を整備していく必要があります。

#### 計画目標

- 1 新規学卒者への就職活動・就労支援を図ります。
- 2 雇用機会の確保と若者・女性・高齢者・障がい者の雇用促進を図ります。
- 3 労働条件の改善と福利厚生充実を図ります。

#### 主な施策

##### 1 新規学卒者への就職活動・就労支援

- 若者の就職活動および定住就労への支援
- 中海圏域就職ナビの活用促進と合同就職ガイダンスの開催および参加者への支援

##### 2 雇用機会の確保と若者・女性・高齢者・障がい者の雇用促進

- 企業誘致の推進と地場産業の活性化を図るための関係機関との連携
- 雇用における男女の均等な機会および待遇の確保を図るための関係機関との連携
- 女性の再就労につながる支援
- シルバー人材センターにおける新規事業開拓と高齢者の能力活用への支援
- 障がい者の雇用促進に係る啓発活動の推進

##### 3 労働条件の改善と福利厚生充実

- 中小企業退職制度など各種福利厚生制度の普及促進
- ワーク・ライフ・バランスの推進を図るための関係機関との連携
- 育児・介護休業制度の利用促進を図るための関係機関との連携
- 勤労者福祉施設の利用促進
- 勤労者向け融資の促進

数値目標

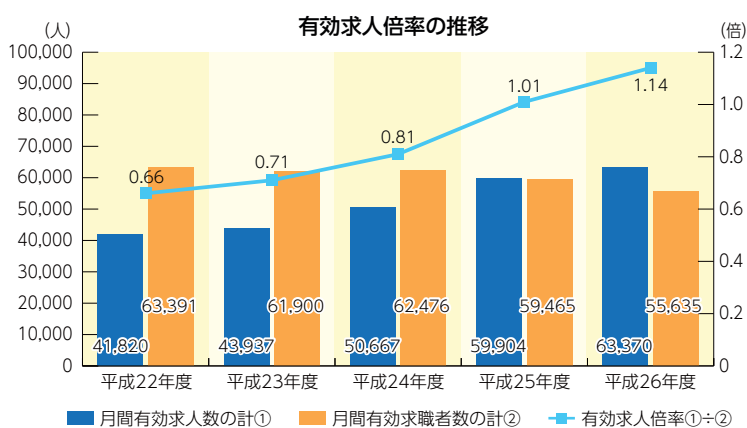
合同就職ガイダンスへの米子市出身者参加数 ＜年間＞					
指標名		指標の説明			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標1】 新規学卒者への就職活動・ 就労支援を図ります。		中海圏域4市で連携して実施する合同就職ガイダンスに参加した本市出身者の数です。 若者の居住・就労を促進するため、ガイダンスへの参加者を毎年20人ずつ増やし、142人にすることを目標とします。			
参考値				現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H26	H32
—	—	—	42人	42人	142人

参考資料

有効求人倍率の推移（ハローワーク米子管内）

（単位：人、％）

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
月間有効求人数の計①	41,820	43,937	50,667	59,904	63,370
月間有効求職者数の計②	63,391	61,900	62,476	59,465	55,635
有効求人倍率①÷②	0.66	0.71	0.81	1.01	1.14



＜資料：ハローワーク米子＞



就職ガイダンス風景



①仕事と生活の調和。誰もが、仕事、家庭生活、地域活動、個人の自己啓発など、さまざまな活動を自分の希望するバランスで実現できる状態のこと。

# 1 『あした』がいきいき

あした  
未来の活力とにぎわいを生み出す、  
魅力あふれるまちづくり

まちづくりの基本方向

## 8 新たなにぎわいの創出と地域情報の発信

### 基本計画 ① 移住定住の促進

#### 現況と課題

本市の人口は、平成17（2005）年の旧米子市と旧淀江町との合併後、15万人程度を維持していますが、今後は人口が減少に転じ、少子高齢化がいつそう進展することが見込まれています。

平成26（2014）年に国が実施した東京在住者の移住意識調査では、都市在住者の田舎暮らしやふるさと回帰志向が高まっているとされており、このような状況を好機ととらえ、市の魅力の情報発信を強化することなどにより、首都圏や関西圏など山陰両県以外の地域を幅広く視野に入れた移住定住の取組をいつそう推進し、人口減少を可能な限り抑制していく必要があります。

また、未婚晩婚化の進展が少子化に拍車をかける要因となることから、未婚晩婚化対策を図り、若者の定住定着と少子化の抑制につなげていく必要があります。

#### 計画目標

1 移住定住対策や未婚晩婚化対策などを実施し、移住定住の促進を図ります。

#### 主な施策

##### 1 移住定住の促進

- 移住定住につながる情報発信の充実
- 移住定住相談の充実・強化
- 移住者に対する支援の充実
- お試し住宅の運営と移住定住対策の推進
- 空き家情報バンクの整備・運営

##### 2 未婚晩婚化の抑制

- 婚活イベントなどによる出会いの場づくり
- セミナーなどによる結婚支援の実施



移住定住相談会風景



数値目標

指標名		県外からの移住者数 ＜平成28年度から平成32年度の合計＞			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標1】 移住定住対策や未婚晩婚化対策などを実施し、移住定住の促進を図ります。		県外から本市へ移住定住された人数です。 移住定住につながる取組の充実を図ることによって、県外からの移住者を毎年300人ずつ、5年間で1,500人増やすことを目標とします。			
参考値		現状値		目標値	
H23	H24	H25	H26	H27	H32
4人	61人	29人	54人	—	1,500人

指標名		婚活イベントやセミナーなどの参加者数 ＜平成28年度から平成32年度の合計＞			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標1】 移住定住対策や未婚晩婚化対策などを実施し、移住定住の促進を図ります。		結婚を希望する人などへ出会いの場を提供することを目的として市が主催・共催する婚活イベントやセミナーなどへの本市参加者を5年間で500人にすることを目標とします。			
参考値		現状値		目標値	
H23	H24	H25	H26	H27	H32
—	— (128人)	— (74人)	48人 (210人)	69人 (265人)	500人 (1,500人)

※（ ）は、全参加者数です。

参考資料



米子市移住定住ガイドブック  
「ほわっとよなご」



お試し住宅写真

# ① 『あした』がいきいき

あした  
未来の活力とにぎわいを生み出す、  
魅力あふれるまちづくり

まちづくりの基本方向

## 8 新たなにぎわいの創出と地域情報の発信

### 基本計画 ② 地域イメージアップと認知度の向上

#### 現況と課題

本市は、中海、皆生温泉、大山などの豊かな自然環境や観光資源、多彩な地域産品などを有しています。また、陸・海・空で国内外と通じる交通の要衝であるとともに、鳥取大学医学部附属病院、米子医療センター、山陰労災病院などの医療機関をはじめ保健・福祉施設なども充実し、比較的暮らしやすい環境にあります。

さらに、鳥取大学医学部や米子工業高等専門学校などの高等教育機関が置かれ、地域資源に関する研究開発や人材育成の機能なども有していますが、本市の全国的な認知度は決して高い状況ではありません。

このような現状のもと、報道機関への情報提供に加えて、ホームページやソーシャルメディア<sup>①</sup>などのICT技術を活用して、本市のもつ地域資源や特性、暮らしやすさなどの地域情報を発信し、地域のイメージアップと認知度向上を図る必要があります。

とりわけ、全国でも比較優位性の高い医療関連技術やサービスをこれからの地域活性化にいかす「先端医療創造都市よなご」構想を推進し、移住定住の促進や産業振興などにつなげていく必要があります。

また、引き続き、本市のイメージキャラクターである「ヨネギーズ」を活用した地域イメージアップや、ふるさと納税制度を活用した全国にむけての地域産品などの情報発信による認知度向上に取り組むことによって、地域経済の活性化や自主自立の財政基盤づくりを推進していく必要があります。

#### 計画目標

- 1 「先端医療創造都市よなご」構想を推進します。
- 2 地域情報の発信による地域イメージアップと認知度向上に取り組めます。

#### 主な施策

##### ① 「先端医療創造都市よなご」構想の推進

- 「先端医療創造都市よなご」情報発信事業

##### ② 地域イメージアップと認知度の向上

- ICT技術を活用した地域情報の発信による認知度の向上
- イメージキャラクター「ヨネギーズ」を活用した地域のイメージアップの推進
- ふるさと納税制度を活用した、地域産品などの情報発信による認知度の向上



① ブログ、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）、動画共有サイトなど、利用者が直接情報を発信し、コミュニティを形成していくメディア。

## 数値目標

指標名		ソーシャルメディア上の公式アカウント数 ＜平成21年度からの累計＞			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標2】 地域情報の発信による地域イメージアップと認知度向上に取り組みます。		本市が取組をはじめた平成21年度以降の本市公式アカウントの総数です。ソーシャルメディア上で本市の公式アカウントを適切に運用することで、個人を巻き込んだ多面的な地域のイメージアップと認知度の向上を図ります。ソーシャルメディア上で常時運用している公式アカウント数を5個増やし、10個にすることを目標とします。			
参考値				現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H27	H32
4個	4個	5個	5個	5個	10個

## 参考資料

## イメージキャラクター「ヨネギーズ」の活用件数

(単位：件)

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
イベントなどへの派遣 (着ぐるみ貸し出し)	77	81	78	77	79
印刷物・キャラクター グッズとしての活用	74	73	92	58	39

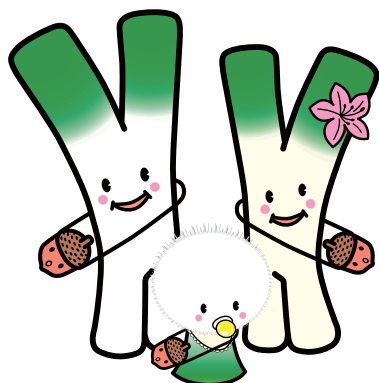
＜資料：観光課＞



「先端医療創造都市よなご」シンポジウム



ふるさと納税米子市民体験パック



ヨネギーズ



米子市ロゴマーク



# 1 『あした』がいきいき

あした  
未来の活力とにぎわいを生み出す、  
魅力あふれるまちづくり

まちづくりの基本方向

## 9 国際交流の推進

### 基本計画 ① 国際交流の推進

#### 現況と課題

本市は、平成3(1991)年に保定市(中華人民共和国)と友好都市の締結を、平成7(1995)年には東草市(大韓民国)と姉妹都市を提携し、これまで、文化・スポーツ・経済・教育などさまざまな分野で地域レベルの交流を行ってきました。

また、平成6(1994)年から、日本・中国・韓国・ロシアの環日本海12都市で「環日本海拠点都市会議」を開催し、拠点都市間の交流や発展方策について協議を行ってきました。

国家間においては、歴史認識問題などの課題はありますが、地方レベルの交流は、異文化の理解など諸外国との相互理解をいっそう推進するとともに、地域の国際化や魅力ある地域づくりにつながることから、今後もこれらの都市をはじめとする諸外国との交流を推進していく必要があります。

また、本市に在住する外国人の国籍は40か国近くに及んでおり、多国籍化が進んでいます。外国人が暮らしやすい環境整備にむけて、地域の国際化を進めていく必要があります。

#### 計画目標

- 1 友好・姉妹都市などとの交流を推進するとともに、諸外国との交流を図ります。
- 2 各種事業による地域の国際化についての市民意識の高揚を図ります。
- 3 外国人にとって暮らしやすい環境づくりを推進します。

#### 主な施策

##### 1 友好・姉妹都市などとの交流の推進

- 保定市との友好都市締結 25 周年記念事業の実施
- 東草市との姉妹都市提携 25 周年記念事業の実施
- 「環日本海拠点都市会議」を通じた連携・交流の推進
- 諸外国との交流の推進
- 民間団体を主体にした市民による交流への支援
- 市職員相互派遣研修事業の実施

##### 2 市民の意識の高揚

- 国際交流員を活用した国際理解講座・講演会などの充実
- 国際社会への関心を高める各種イベント・交流事業の充実

##### 3 外国人にとって暮らしやすい環境づくりの推進

- 暮らしに役立つ外国語版情報発信の充実
- 日本語の理解が難しい小・中学生に対する支援
- (公財)鳥取県国際交流財団など関係機関との連携による在住外国人に対する支援



米子市・東草市 姉妹都市提携20周年記念式



中国語講座



## 数値目標

指標名		国際理解講座等への参加者数 <年間>			
対応する計画目標		指標の説明			
【計画目標2】 各種事業による地域の国際化についての市民意識の高揚を図ります。		市が主催する各種の国際理解講座やイベントの内容をさらに充実させることによって、年間参加者数を500人増やし、3,610人にすることを目標とします。			
参考値				現状値	目標値
H23	H24	H25	H26	H26	H32
2,894人	2,680人	2,628人	3,110人	3,110人	3,610人

## 参考資料

## ● 中国 河北省 保定市 (かほくしょう ほていし)

河北省中部の平野地帯に位置し、首都北京から約140キロメートル、人口は約1,030万人です。紀元前295年に初めて町が築かれ、1986年に国家最高機関である国務院から「全国歴史文化名城」として認定されました。工業・農業が盛んで自動車、大型変圧器、特にソーラーパネル工場は中国最大の規模です。農業では、小麦、落花生、穀類、綿花の生産が盛んであり、果物が豊富でイチゴの生産は国内でも有名です。

平成3(1991)年10月13日に「友好都市関係提携協議書」に調印し、交流が始まりました。



## ● 韓国 江原道 束草市 (かんわんど ぞくちよし)

江原道東部の休戦ラインから南へ約60キロメートルに位置し、人口は約8万3千人です。周辺には国立公園・雪嶽山(ソラクサン)があり、山、海、湖、温泉など天然の自然に恵まれ、国内外から年間1,200万人の観光客が訪れる韓国有数の観光地です。水産業・水産加工業が盛んで、日本海、北洋漁業の前進基地でもあり、またイカの水揚げ量は韓国第1位です。

平成7(1995)年10月18日に「姉妹都市提携に関する結縁書」に調印し、交流が始まりました。

